

経営比較分析表（令和6年度決算）

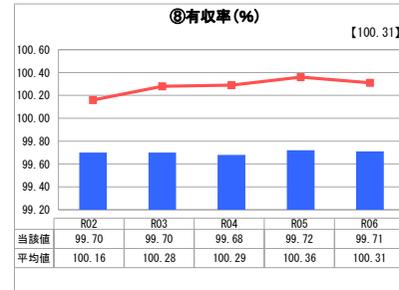
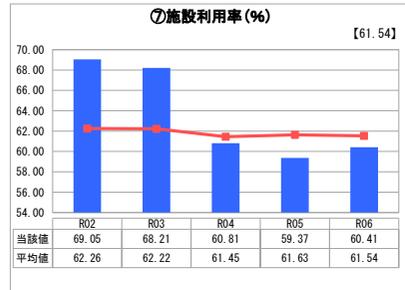
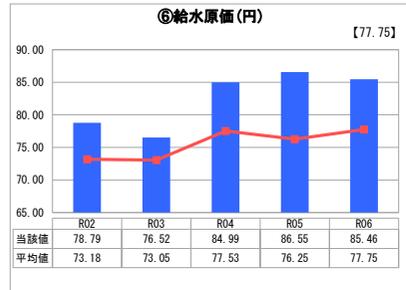
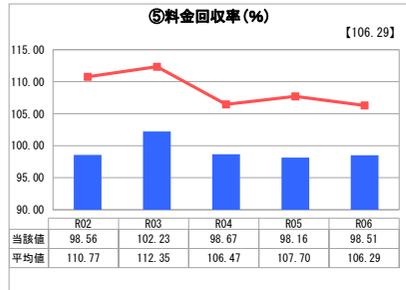
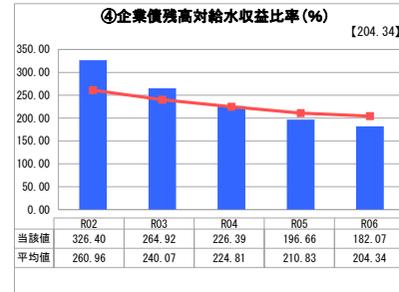
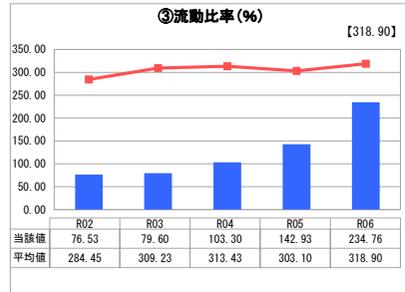
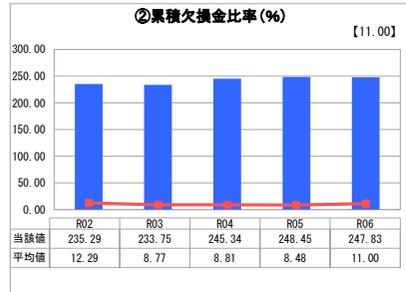
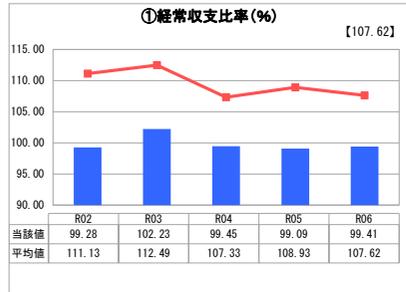
北海道 十勝中部広域水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	自治体職員 その他
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	91.09	94.96	0	

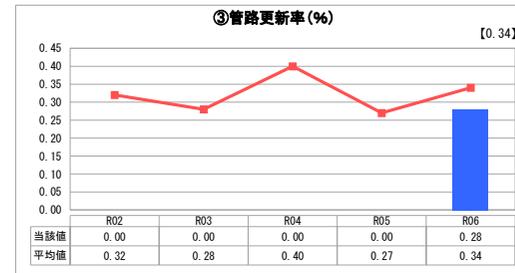
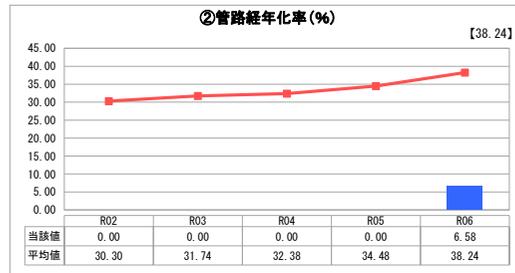
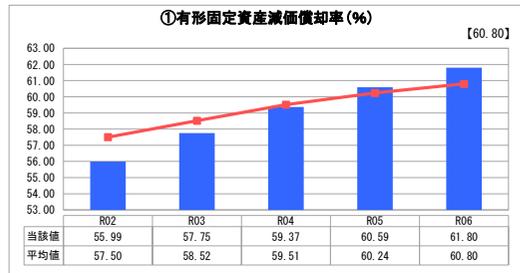
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
-	-	-
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
244,856	994.07	246.32

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率・②累積欠損比率
 経常収支比率は、100%を下回っており、累積欠損比率が増加している。
 ③流動比率
 流動資産の増加により大幅に改善されている。
 ④企業債残高対給水収益比率
 企業債残高は、減少傾向にあり、類似団体より低い比率である。
 ⑤料金回収率
 100%を下回っており、事業に必要な経費を料金収入だけで賄うことができていない状況である。
 ⑥給水原価
 類似団体よりも高い水準で推移している。
 ⑦施設利用率
 類似団体よりも低い水準で推移している。
 ⑧有収率
 99%前後で推移しており、今後も同程度の水準を維持していく。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体と同程度で推移しているが、用水供給事業の開始から20年以上が経過したことで、耐用年数を超過する資産が一部発生している。
 管路についても、今後耐用年数を超えるものが増加していくことから、計画的に更新事業を進める予定である。

全体総括

指標全体としては、概ね健全な経営であると考えられる。
 累積欠損比率が類似団体と比較すると高い値のもの、経営全体としては必要な資金（現金）を確保できている状態である。
 今後、減少が見込まれる水需要を考慮しつつ、施設規模の適正化や業務の効率化を進める必要があることから、令和6年に一部改訂を行った経営戦略に基づき、アセットマネジメントを活用しながら、コスト削減や事業費の平準化を図り安定した資金確保に努めていく。